

平成28年度 事業報告書

自 平成28年4月01日
至 平成29年3月31日

事業概況

平成28年度の日本経済は、アベノミクス取組の下、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いていますが、個人消費及び民間設備投資の伸びは力強さを欠いた状況となっています。

航空界の話題といたしましては、我が国初のジェット旅客機・MRJ が実用に向けた型式証明取得の為に米国における試験飛行が進められています。

日本航空協会は従前より航空宇宙諸般の進歩発展に邁進しており、文化情報事業としましては機関誌『航空と文化』や定例講演会を実施し、航空宇宙の各分野で活躍されている方々のご協力をいただき、身近な航空スポーツ分野の活動や、技術の粋を集めた最新鋭国産機の製作状況、そして宇宙開発の現状に至るまで、広範な話題をみなさまへご紹介しました。また、航空遺産継承の取り組みとしましては、本協会が所有しております三式戦闘機「飛燕」二型の川崎重工業様による修復の監修を行い、秋に修復を完了しました。「飛燕」は戦後付加された部品や塗装を取り除かれほぼオリジナルの状態に戻り、かかみがはら航空宇宙科学博物館において展示が開始されました。航空遺産の収集、調査、保存も継続して参ります。

航空スポーツの分野では、国際航空連盟 (FAI) の日本における会員 (NAC: National Airsport Control) として FAI 総会や関連国際会議への参加、日本選手権や世界選手権出場への公認、日本記録や世界記録の承認や管理、FAI 等が主催する国際競技会への日本選手団の派遣など、これまでの支援活動を継続いたしました。さらに、FAI 青少年航空宇宙絵画国際コンテストおよび航空スポーツ教室ならびにこども模型飛行機教室を開催し、こどもたちの空への憧れや科学する心を育む事業も実施しました。また、11 月には佐賀県において第 22 回熱気球世界選手権が開催され 31 カ国・地域から 105 機の参加があり成功裡に終了いたしました。

国際線発着調整業務では、成田国際空港、東京国際空港 (羽田)、関西国際空港、新千歳空港、福岡空港の 5 混雑空港に就航する国際・国内定期便のスケジュール調整に関し、諸制約を踏まえつつ IATA (国際航空運送協会) のガイドライン等に則って、中立性、公平性、透明性を確保しつつ、業務を行っております。

上記を含む当協会のさまざまな公益事業等を本年度も予定通り実施し、その遂行に欠かせない収入の財源である航空会館運営事業につきましては、その収入の最大化と費用圧縮により収益の維持に努めました。

各事業の詳細は後頁の通りとなりますので、ご参照願います。

第 1 庶務事項

I . 会 議

1 . 評 議 員 会

第 6 回評議員会を平成 2 8 年 6 月 9 日に開催し、平成 2 7 年度の決算、評議員（改選期）、理事選任、評議員および役員等の報酬並びに費用に関する定款および規程の変更について承認可決した。

2 . 理 事 会

第 1 3 回理事会を平成 2 8 年 5 月 2 6 日に開催し、平成 2 7 年度事業報告並びに平成 2 7 年度決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、平成 2 7 年度 公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問の選任について承認可決した。

常務理事の選定について、第 1 4 回理事会の書面によるみなし決議として平成 2 8 年 6 月 9 日に理事 岸 周豊を常務理事に承認可決した。

第 1 5 回理事会を平成 2 9 年 3 月 2 3 日に開催し、平成 2 9 年度 事業計画及び予算について及び新橋一丁目 1 8 番街区 法定市街地再開発事業の準備組合への参画について承認可決した。

3 . 常 任 理 事 会

平成 2 8 年度は常任理事会を 1 1 回開催し、重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第 1 回	平成28年 4月21日	各事業活動状況の報告。
第 2 回	平成28年 5月19日	平成 2 7 年度事業報告及び決算の件、平成 2 7 年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件、顧問の選任の件、会長(代表理事)、副会長、専務理事、常務理事(執行理事)の職務状況報告の件、表彰委員の継続および変更について承認。各事業活動状況の報告。
第 3 回	平成28年 6月23日	各事業活動状況の報告。
第 4 回	平成28年 7月21日	各事業活動状況の報告。
第 5 回	平成28年 9月15日	各事業活動状況の報告。
第 6 回	平成28年10月20日	各事業活動状況の報告。
第 7 回	平成28年11月24日	各事業活動状況の報告。
第 8 回	平成28年12月20日	各事業活動状況の報告。
第 9 回	平成29年 1月26日	平成 2 9 年度資金運用管理方針について承認。各事業活動状

第10回	平成29年 2月23日	況の報告。 日本航空協会航空遺産継承基金専門委員委任について承認。 各事業活動状況の報告。
第11回	平成29年 3月16日	平成29年度 事業計画及び予算の承認について、新橋一丁目18番街区 法定市街地再開発事業の準備組合への参画について承認。各事業活動状況の報告。

II. 役員人事

1. 理事

平成28年 6月 9日	就任 (2名)	岸 周 豊、吉永 泰之
平成28年 6月 9日	辞任 (1名)	釜 和明
平成28年 6月12日	辞任 (1名)	佐藤 淳造
平成28年12月 3日	辞任 (1名)	高橋 寿夫 (死亡退任)
平成29年 3月 6日	辞任 (1名)	大河内 暁男 (死亡退任)

2. 監事

平成28年12月11日	辞任 (1名)	宮本 春樹 (死亡退任)
-------------	---------	--------------

3. 評議員

平成28年 6月 9日	就任 (23名)	青木 勝、今清水 浩介、内田 孝也、 太田 正、大前 傑、鍛冶 壯一、 鐘尾みや子、川野邊 渉、坂尻 敏光、 下枝 堯、荘司 暁夫、鈴木 一義、 鈴木 真二、相馬 元実、田口 久雄、 棚橋 泰、西川 渉、藤原 洋、 藤本 博毅、帆足 孝治、的川 泰宣、 本橋 和彦、安田 邦男
平成28年 6月 9日	辞任 (5名)	五代 富文、藤田 恒郎、松田 政雄、 屋井 鉄雄、和田 武彦

Ⅲ. 賛助員

平成20年に「公益法人制度改革関連法」が施行され、それに則り日本航空協会は平成24年7月2日に一般財団法人に移行を完了した。これを機に新定款にて新賛助員制度を設け、日本航空協会の事業全般に賛同する法人及び個人の方々へ賛助をお願いしている。

平成28年度実績 法人賛助員 126口（7法人）

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、朝日航洋株式会社、株式会社ジャムコ、東京航空クリーニング株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、東邦航空株式会社（順不同）

第2 事業実績

I. 文化事業

1. 講演会の開催

(1) 「航空と宇宙」定例講演会の実施

昭和58年の開講以来、幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する定例講演会を開催している。平成28年度の定例講演会は、航空会館に於いて下表のとおり開催した。

回/ 開催日	演 題 ・ 講 師	参加人数
271回 5月23日	「名機を生んだ”設計者の閃き”」 元YS-11設計部員、元日本航空機開発協会常務理事、 日本航空宇宙学会名誉会員 鳥養鶴雄	150名
272回 8月23日	「日本の人力飛行50周年記念～ 人力飛行機“リネット”開発物語～」 日本大学理工学部“リネット”開発メンバー 千本木茂夫、岡宮宗孝	60名

273回 10月13日	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 1. 「国産旅客機MRJの開発と飛行試験」 三菱航空機（株）技術本部副本部長 佐倉潔 2. 「超小型衛星が切り拓く宇宙開発のフロンティア」 東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻准教授 船瀬龍 3. 「最近の民間エンジンの特徴と技術動向」 （株）IHI 航空宇宙事業本部民間エンジン事業部副事業部長 西川秀次	128名
274回 2月28日	『日本のLCCの現状と将来展望・戦略』 1. 『空飛ぶ電車』Peachの挑戦 Peach Aviation（株）代表取締役CEO 井上慎一 2. 「ローコストキャリアーの挑戦ーバニラエア」 バニラ・エア（株）代表取締役会長 石井知祥 3. 「ジェットスター・ジャパンの戦略と挑戦」 ジェットスター・ジャパン（株）代表取締役会長 片岡優氏	320名

(注) 第273回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は、例年通り一般社団法人日本航空宇宙学会ならびに公益社団法人日本航空技術協会との共催である。

2. 展示会の実施

航空会館6階展示コーナーにおける展示を下表の通り行った。

展 示 期 間	展 示 内 容
平成28年4月～	『JSC presents デスクトップモデルの世界 外国のエアライン編』 模型51機

3. 航空図書館

(1) 利用状況 (H28.4～H29.3の実績)

項 目		当該期	月 平 均	1 日 平 均
開館日数	(日)	255	21	—
入館者数	(人)	2911	243	11
貸出登録証発行数	(件)	27	2	—
内 訳 (件)	(一般)	19	2	—
	(大学・短大等の学生)	7	—	—
	(小・中・高生)	1	—	—
貸出利用者数	(人)	578	48	2
貸出冊数	(冊)	1129	94	4
複写利用者数	(人)	613	51	2

資料照会・利用案内件数（件）	1 7 3 3	1 4 4	7
ビデオ利用本数（本）	9 5	8	—

(2) 資料受入状況 (H28.4~H29.3の実績)

	購 入			寄 贈			総計
	国内	国外	計	国内	国外	計	
図 書 (冊)	1 1	3	1 4	1 5 2	1 4 2	2 9 4	3 0 8
雑 誌 (種類)	5	3 5	4 0	7 1	5	7 6	1 1 6
資 料 (件数)	3	0	3	1 4	0	1 4	1 7
ビデオ・DVDソフト (本)	0	0	0	2 2	0	0	2 2

4. 機関誌・図書の刊行

機関誌冊子版「航空と文化」は年2回発行し、広く航空宇宙にテーマを求めて編集している。当協会ウェブサイト内に開設のWEB版「航空と文化」は冊子版から記事の転載を含めて随時更新している。インターネット時代を反映し、多くの読者からアクセスされている。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.113 (1,600部)、No.114 (1,600部) を発行した。

「航空と文化」No.113 夏季号 平成28年7月15日発行

「航空と文化」No.114 新春号 平成29年1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

平成28年4月、平成29年3月の各月に更新した。

(3) 航空宇宙年史

更新を行わなかった。

(4) 航空統計要覧

「航空統計要覧2016年版」を平成28年12月20日に発行した。

(1) 及び (2) の概要は、**別表1** (付1頁) の通り。

II. 航空遺産継承基金事務局業務

- ・川崎重工業(株)の全面的な協力のもとに「飛燕」の川崎重工業岐阜工場において修復を実施し、神戸にて「川崎重工創立120周年記念展 ー世界最速にかけた誇り高き情熱ー」で10月15日から11月3日まで展示された後、かかみがはら航空宇宙科学博物館の収蔵庫にて11月19日から分解された状態で展示された。
- ・青森県航空協会の所有する一式双発高等練習機を重要航空遺産に認定した。
- ・航空遺産の調査寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

1. 賛助員

平成28年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員（累計）	11名、1団体
法人賛助員	35口（10法人）
個人賛助員	26口（26名）

2. 特別顧問及び専門委員

(1) 特別顧問

林 良博	独立行政法人国立科学博物館館長
三輪 嘉六	前独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

(2) 専門委員

鈴木 一義	独立行政法人国立科学博物館科学技術史グループグループ長、当協会評議員
中山 俊介	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長
藤田 俊夫	航空史家
藤原 洋	航空史家、当協会評議員（平成28年10月31日まで）
柳沢 光二	航空史家
横山 晋太郎	前かかみがはら航空宇宙博物館参事、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所客員研究員

3. 活動報告

(1) 航空資料保存に関する研究

前年に引き続き、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所と共同で実施している資料保存に関する研究を継続した。

(2) 寄贈資料

以下の資料を初めとする寄贈を受けた。

- 1) 宮原勲氏が戦前イギリスや日本で飛行機などを撮影したネガ、アルバムなど
- 2) 逡信省航空局で大阪飛行場長などを務めた甲斐茂吉氏の写真や辞令など
- 3) 朝日新聞社の操縦者であり1944年7月に世界長距離周回飛行記録を樹立したA-26長距

離機の機長を務めた小俣寿雄氏が遺された資料

- 4) 戦前航空局に勤務、戦後は日本航空技術協会事務局長を務めた中西正義氏が遺された資料
- 5) 飛燕の脚標示灯
- 6) ダグラスDC-8、ボーイング727などに関する資料
- 7) 後藤文明氏が戦前・戦中に撮影、収集した飛行機の写真32枚
- 8) 飛燕などの写真10枚
- 9) 世界一周に成功した「ニッポン」号の佐藤信貞通信士が使っていた航法計算盤など
- 10) 1924年に日本1周した川西航空機のK-6型「春風」号をはじめとする同社の民間機などの設計を手がけた関口英二氏が残した写真アルバムなど
- 11) 戦前・戦中の飛行機を撮影したガラス乾板
- 12) 日本陸軍の搭乗員・加古健一氏の写真アルバム
- 13) 1938年に来日したドイツの4発旅客機Fw200コンドルの乗員のサイン色紙
- 14) 戦前の民間航空機の登録記号の調査などで著名であった上甲昇氏（1923-2015）の残した資料
- 15) 陸軍91式戦闘機（愛国24「三井鉱山」号）の献納セレモニーを収めた記念写真帳
- 16) 初級滑空機K-14の図面など

(3) 写真資料等の貸出

- 1) ハンス・グラデー単葉機などの写真3枚のデジタルデータを苫小牧市美術博物館に
- 2) 九四式偵察機の写真3枚のデジタルデータを『航空ファン』9月号掲載用として
- 3) グラデーなどの写真12枚のデジタルデータをニュートンプレスに『別冊ニュートン 飛行の原理から最新鋭の航空機まで 航空機のテクノロジー』掲載用として
- 4) フランスの飛行家・ジャッピーに関する写真4枚のデジタルデータを佐賀県神埼市に
- 5) 三菱MC-1旅客機の写真7枚のデジタルデータを豊岡市立歴史博物館に
- 6) ライト飛行機をはじめとする写真11枚、『帝国飛行協会会報第一巻第一号』などの書籍6冊、写真集『それでも私は飛ぶ』の写真パネル化した資料30枚、昭和5年設立の御国飛行学校の動画1点を、愛媛県八幡浜市が開催する「八幡浜郷土企画展～二宮忠八生誕150年記念～大空への挑戦 飛行機の発明と発展」に
- 7) 女性操縦士キャサリン・スチンソンの写真1枚のデジタルデータを東京新聞に
- 8) 安藤飛行機研究所の空撮写真1枚のデジタルデータを㈱オフィスげんぞうに
- 9) 日野・徳川両大尉の写真など計3枚のデジタルデータを有限会社エアロベースに
- 10) 1911年に目黒競馬場でアメリカのボールドウィン飛行団が飛行中の写真1枚のデジタルデータを『Fly Wheels』誌に
- 11) 立川飛行場にあった御国飛行学校の写真1枚のデジタルデータを『航空ファン』8月号掲載用として
- 12) 「飛燕」を川崎重工業（株）（10月9日～11月3日）および各務原市（11月12日～3月31日）に貸出した。

(4) その他

- 1) 故山崎好雄氏、平木國夫氏の図書・写真などの資料の整理作業を、東京文化財研究所

において実施した。

- 2) 万世特攻平和祈念館（鹿児島県南さつま市）所蔵資料の調査を行っている東京文化財研究所から協力の依頼があり、8月30日～9月7日までの間、同館所蔵の航空機部品の調査を基金事務局員が実施した。
- 3) 東京文化財研究所から航空機を含む近代産業遺産に関する海外事例調査について協力依頼があり、9月22日～9月30日の間ドイツおよびイギリスの航空博物館などの調査を、3月5日～16日の間米国の航空博物館などの調査を基金事務局員が実施した。
- 4) 航空協会ホームページに宮原旭氏の写真アルバム、および陸軍三式戦闘機「飛燕」搭載されたエンジンに関連する『「ハ」四〇部品及組立検査要領』、『「ハ60」41型発動機取扱法』を掲載した。
- 5) ゲッピンゲンⅢ型グライダーの青焼き用トレーシングペーパー原図、陸軍三式戦闘機「飛燕」に搭載されたエンジンの取扱説明書など、戦前の航空に関する35ミリモノクロ動画フィルム、および航空関係者インタビューの音声カセットテープのデジタル化を専門業者に依頼し実施した。

Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

1. 概況

航空スポーツ活動において、大会開催や競技者数は大きな変化はなく、数年来の平均的な実績で推移している。国際航空連盟（FAI）の活動は、総会・委員会については、例年の通り、年次総会（インドネシア）に当協会より萩尾副会長はじめ3名が出席し、また各国で開催されたFAI種目別6委員会に、航空スポーツ統括団体から代表委員が出席し、選手権も例年の通りに参加した。

アジア地域における航空スポーツの認知度向上、普及と振興、他組織へのアピール等を目的として2015年2月に設立され、FAIが承認するアジア航空スポーツ連盟AFA（Airsports Federation of Asia）の2016年第1回執行役員会議が2016年5月にバンコクで開催され、岸航空スポーツ室長が参加した。

2018年に開催されるアジア大会でパラグライダー競技が実施されることに伴い、AFAと、主に中東地区の国が加盟する航空スポーツ団体AASF（Asian Air Sports Federation）を統合し、新たなアジア航空スポーツ連盟ASFA（Air Sports Federation in Asia）を発足することをFAIとOCAで合意し、2017年3月8日にドバイにおいて、覚書が締結された。覚書には、2018年に開催されるアジア大会におけるFAI及び新団体の役割も明記される等、アジアにおける航空スポーツ競技会の振興活動を担う団体として始動した。

また、2017年3月19日に2017年第1回AFA執行役員会議が、また、3月20日には第1回FAIエア・スポーツ・イン・アジアサミットが香港で開催され、岸航空スポーツ室長と田中職員が参加した。AFA執行役員会議では新たに設立されたアジア航空スポーツ連盟やアジア大会についての説明と検討等が行われた。また、初開催のサミットでは参加したアジア各国の活動報告や今後アジアにおけるFAI国際競技会の開催についての検討等が行われた。

愛好者に目を向けると、若い世代の減少や余暇の過ごし方の変化などが相まって各種目とも減少傾向が続いており、年齢構成も高齢化の道を辿っている。引き続き若い世代への興味を喚起する努力と子供達への地道で継続的な情報発信や働きかけを継続することが、航空スポーツを普及・振興し、かつ、愛好者を獲得して、活動の活性化するための重要な課題となっている。

FAI国際競技会では、2016年5月カザフスタンで開催された第3回FAIパラグライダーディング・アキュラシーアジア選手権で、伊藤まいこ選手が女子部門で初優勝に輝いた。また、2017年1月オーストラリアで開催された第34回FAI滑空世界選手権18mクラスで、市川展選手が2位に入賞し、日本選手として初の表彰台に輝いた。

第22回FAI熱気球世界選手権が佐賀県佐賀市で開催され、31の国と地域から105機/チーム（日本7機/チーム）、総勢2,380名の選手/役員が参加した。アメリカのレット・ハートシル選手が優勝し、連覇が期待された藤田雄大選手は11位に留まり、日本勢と

しては佐藤将史選手の8位が最高成績であった。日本で開催された熱気球の世界選手権は、今大会が4回目、佐賀市では3回目の開催となった。

人力航空機のFAI世界記録挑戦が活発になり、専門知識や安全管理を含めた指導が行える状況を速やかに整えておくことが求められる現状にあることから、従来、鳥人間コンテストで長きに渡り機体審査や安全管理を務める等「人力航空機」についても活動しているエクスペリメンタル航空機連盟（EXAL）と当協会との間で検討した結果、平成28年12月21日付けでEXALを「人力航空機」の統括団体として認定し、今後のFAI活動への協力体制を構築した。

当協会が把握している日本国内で発生した航空スポーツ重大事故（対象期間：平成28年4月1日から平成29年3月31日）は、11件（死亡者数10名）であった。各統括団体に対して組織的な安全対策構築に取り組むように、また、愛好者一人一人には機材整備・技量向上・地域気象判断は勿論のこと、航空スポーツのモットーである「安全に楽しく・他人に迷惑をかけない自己責任」の認識を徹底するように、引き続き各統括団体を通じて働きかけを行った。航空スポーツ団体の活動状況は、**別表2**（付2頁）の通りである。

2. 国際航空連盟（FAI）に関する活動

- (1) 第110回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より3名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
第110回総会	2016年10月14日 ～15日	バリ島 (インドネシア)	萩尾 裕康 岸 周豊 田中 彩香

- (2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
国際模型航空委員会	2016年04月08日 ～09日	ローザンヌ (スイス)	日本模型航空連盟 廣瀬 春信
国際曲技飛行委員会	2016年11月05日 ～06日	ブカレスト (ルーマニア)	(公社)日本航空機操縦士協会 鐘尾 みや子
国際マイクロライト・パラモーター委員会	2016年11月10日 ～12日	高雄 (台湾)	日本パラモーター協会 五十嵐 亮弥
国際ハング・パラグライディング委員会	2017年02月04日 ～05日	ザルツブルク (オーストリア)	(公社)日本ハング・パラグライディング連盟 岡 芳樹
国際滑空委員会	2017年03月03日 ～04日	ブダペスト (ハンガリー)	(公社)日本滑空協会 丸山 毅

国際気球委員会	2017年03月17日 ～18日	香港 (中国)	日本気球連盟 市吉 三郎
---------	---------------------	------------	-----------------

- (3) 2016年第1回AFA(AFA: Airports Federation of Asia)執行役員会議が開催され、日本代表として当協会より1名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
AFA執行役員会議	2016年5月13日	パタヤ (タイ)	岸 周豊

- (4) 2017年第1回AFA(AFA: Airports Federation of Asia)執行役員会議並びに第1回FAIエア・スポーツ・イン・アジアサミットが開催され、日本代表として当協会より2名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
AFA執行役員会議	2017年3月19日	香港 (中国)	岸 周豊
FAIエア・スポーツ・イン・ アジアサミット	2017年3月20日		田中 彩香

3. 選手権等

平成28年4月～平成29年3月に実施された日本選手権、日本で開催された国際競技会(カテゴリーI、II)は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー、マイクロライトの4種目、計24サブクラスが公認され、成立した。

海外で開催されたFAI国際競技会(世界選手権、大陸選手権)には、熱気球、エアロバティック(滑空機)、滑空機、模型航空機、ハング・パラグライダー、マイクロライト(パラモーター)種目に日本選手が参加(派遣)した。

各種競技会の実績は、**別表3**(付3～7頁)の通り。

4. 記録の公認等

平成28年4月～平成29年3月に当協会が認定した日本記録は、模型航空機3件であった。また、FAIより認定された国際記録は、滑空機1件(オセアニア大陸記録)、模型航空機2件(世界記録)、ハンググライダー1件(世界記録)、パラグライダー1件(世界記録)、パラシューティング1件(アジア大陸記録)であった。

別表4(付7～8頁)を参照。

5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成することを目的に理論と体験を組み合わせた「航空スポーツ教室」と「こども模型飛行機教室」(こども模型飛行機教室全国推進委員会共催)を「スカイ・キッズ・プログラム」として昨年に引き続き実施した。

- (1) 航空スポーツ教室

以下3箇所で開催し、熱気球の係留体験搭乗後、模型飛行機教室(ゴム動力飛行機

製作、飛行)及びパラグライダーふわり体験を実施した。指導については、日本気球連盟、日本模型航空連盟、(公社)日本ハング・パラグライディング連盟の協力を得た。

愛知県東海市製鉄公園(7月18日、参加者:80名)

東京臨海広域防災公園(8月6日~7日、参加者:1,487名)

宮崎県日南市総合運動公園(3月12日、参加者:18名)

(2) こども模型飛行機教室(こども模型飛行機教室全国推進委員会共催)

23箇所(参加者1,080名)で開催した。教室では、オリジナルの座学用DVD(飛行の歴史、航空スポーツ紹介)や揚力実験装置等を用いて座学を行ない、オリジナルゴム動力模型飛行機(スカイ・キッズ号)の製作、飛行調整・ミニ競技を実施した。

6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟(FAI)が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2017FAIヤング・アーティスト・コンテスト」の国内予選を、昨年に引き続き開催した。

今回は「雲のかなた(原題;Beyond the Clouds)」をテーマに全国より総数370名から応募があり、平成29年2月23日開催の審査会の結果、下表の通り10名が入賞した。なお、優秀賞9作品は、FAI国際コンテストに日本代表として出品した。

優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6~9歳 (年少)	渡部 朔矢	埼玉県上尾市	Fly me to the moon くものかなたに
	藤井 杏果	兵庫県明石市	おそらのおさんぽ
	加藤 玲奈	神奈川県海老名市	雲の下は海。
10~13歳 (年中)	栗原 明日香	神奈川県横浜市	朝焼けに照らされて
	西谷 美来	大阪府松原市	自由なる青の景色
	椎野 奏海	愛知県常滑市	空とぶ紙ひこうき
14~17歳 (年長)	山下 ひさ乃	静岡県浜松市	地平線へ
	鈴木 愛里	静岡県浜松市	空と飛行機
	戸塚 太一	静岡県浜松市	常昇

審査員特別賞

賞名	氏名	住所	題名
審査員特別賞	富永 千遥	静岡県浜松市	その先へ

7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、[別表5](#)（付10～12頁）の通り。

IV. 表彰・弔慰援護事業

1. 表彰

(1) 平成28年度表彰

6月24日開催の表彰委員会で、平成28年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定し、9月20日に国際航空連盟(F A I)賞各賞の伝達式、日本記録証授与式を兼ねた航空関係者表彰式を航空会館において行った。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航空亀齡賞	青木 英雄、大島 梓、太田 修平、雲居 時行、櫻井 晴好、 高橋 久生、本多 靖正、義若 基
航空功績賞	伊藤 源嗣、関口 千春、戸田 信雄、鳥養 鶴雄
空の夢賞	室屋 義秀
航空スポーツ賞	檀上 彰宏、平木 啓子、磯本 容子

2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
FAIグループ・ディプロマ・ オブ・オナー	佐賀大学熱気球部
FAIエア・スポーツ・メダル	広田 和弘、上島 栄、齋藤 岳志、石川 雅浩

協会賞及びF A I賞の詳細は、[別表6](#)（付13～15頁）の通り。

記録の詳細は、[別表4](#)（付7～8頁）の通り。

2. 弔慰援護

航空関係物故者7名について、航空育英会を継続実施し、平成28年度の給付奨学金総額は1,260千円、受給奨学生の人数は9名で、その内訳は、小学生2名、中学生2名、高校生3名、大学生2名であった。

V. 航空交流事業

1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、平成29年1月4日航空会館において、武藤浩国土交通審議官、田端浩大臣官房長、佐藤善信航空局長、航空関係者454名が出席して盛大に行われた。

2. 航空神社祭事

平成28年9月20日に航空会館9階において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を実施した。

平成29年1月4日に新年祭を執り行った。

また、従来より要望のあった新しいお守りとして「カード守」と「紙符守」の2種類を平成28年9月20日から追加し、現在3種類のお守りを授与している。

VI. 全国地域航空システム推進協議会 事務局業務

平成28年6月22日の通常総会にて承認された事業計画及び収支予算計画に基づき、次の通り事業活動を行った。関係団体との連携による国への要望活動を行った結果、平成29年度税制改正において当協議会の要望でもある航空機燃料税の軽減措置の延長（3年間）、地球温暖化対策税（石油石炭税）還付措置の延長（3年間）、航空機部分品等の関税措置の延長（3年間）が決まり、国の地方航空支援方策として、昨年までの3か年で実施された「地方航空路線活性化プログラム」に続き「地方航空路線活性化プラットフォーム事業」が立ち上がり、地方航空路線の維持・拡充のための取組のうち、国として評価したモデル的な取組についての実証調査が実施される。また、乗員の養成・確保対策の検討が進められ、国としての短期的な課題解決策として①自衛隊操縦士の活用、②外国人操縦士の活用、③健康管理向上等による現役操縦士の有効活用等の具体策が講じられた。

1. 研究調査

以下の検討会を立ち上げ、地域航空事業者が安定的に運航を維持していくための課題を抽出し、問題点を整理するとともに、解決のための取組について方向性を検討した。

テーマ	委託先
地域航空の新たな枠組づくりに向けた検討会	加藤一誠氏(慶應義塾大学商学部教授) 安嶋新氏(インフラ経営研究所顧問) 松井収氏(ANA 総合研究所主席研究) 幕亮二氏(FFG ビジネスコンサルティング 副部長) 熊本県、長崎県、鹿児島県、兵庫県、 北海道、事務局

2. 研修会等の開催

平成29年1月25日、「研修会」を開催し、以下のテーマと講師による講演を実施した。参加者数は120名。研修内容については、資料・講演録を取り纏め会員に周知した。

テーマ	講師
航空事業の現状と今後について	国土交通省 航空局 航空ネットワーク部 航空事業課 課長補佐(総括) 松島 宇大 氏
地方空港に対する政策担当者の役割と 地元関係者の参画のあり方	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 西藤 真一 氏
バイオジェット燃料導入に関する世界の 動向および日本の進捗について	株式会社 ユーグレナ 取締役 財務・経営戦略担当 永田 暁彦 氏

3. 国への要望等の取り組み

地域航空システム推進のため、以下の項目について国への要望活動を実施した。

(1) 6月22日 国土交通省 宛

総会終了後、会長県の熊本県 企画振興部 交通政策・情報局 福島誠治局長により、次の6項目の要望を行った。

- ① 混雑空港への地域航空の安定的乗り入れの実現について
- ② 地方が管理する空港の老朽化対策及び整備等に対する助成制度の拡充について
- ③ 離島航空路線維持対策の拡充等について
- ④ 地方航空路線の維持対策について
- ⑤ 地域航空事業者の経営強化対策について
- ⑥ 震災、災害を踏まえた空港機能の強化について

(2) 11月28日 国土交通省 宛

会長県の藤井一恵 熊本県交通政策課長を中心に、6月22日に行った要望のうちの

重点項目に緊急性のある項目を加えた下記3項目を掲げ、特別要望を行った。

- ① 地域航空と混雑空港の関わりについて
- ② 地域航空の安定的な路線の維持について
- ③ 空港機能の強化・老朽対策について

4. 地域振興のための啓発活動

地域振興のための啓発活動として「地域航空フォーラム/16」(第17回)を下記のとおり開催した。また、翌10/29には北九州市協力のもと船から見る世界遺産官営八幡製鉄所工場群(洞海湾クルージング)および北九州空港見学を実施した。

日 時：2016年10月28日(金) 13:30～17:10 (開場 13:00)

場 所：リーガロイヤルホテル小倉 (ロイヤルホール)

参加人数：140名 (参加無料)

テ ー マ：『地方創生と航空』(第2回)

(1) 基調講演

「地方航空ネットワークの維持活性化と地方創生」

鈴木 賢治氏(国土交通省航空局航空事業課地方航空活性化推進室長)

「経営の視点から見た地域航空」

安嶋 新氏((一社)インフラ経営研究所顧問)

(2) 論点整理

「航空・空港を地方創生にどう活かす？」

加藤一誠氏(慶応義塾大学商学部教授)

幕 亮二氏(FFGビジネスコンサルティング企画調査部副部長)

(3) パネルディスカッション

「地方創生と航空・空港を考える」

コーディネーター：加藤 一誠氏(同上)

パネリスト：鈴木賢治氏(同上)、幕 亮二氏(同上)、安嶋 新氏(同上)

引頭雄一(関西外国語大学外国学部教授)

Ⅶ. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

平成28年度は、以下の通年事業を実施した。

(1) 第64回「空の日」航空関係功労者大臣表彰

9月20日に国土交通省共用大会議室にて実施した。

(2) 広報活動

青少年向けに開設している空の日ホームページの普及と充実、Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室、空港イベント等での「空の日」ポスター告知、普及振興グッズの配布、「くにまる」の着ぐるみを各イベント会場等で活用し、広報活動に努めた。

(3) 中学生派遣事業

海外派遣コース（4泊6日）は、成田地区の中学生6名を対象とし、B787の製造を行っているボーイング・エバレット工場等の航空関連施設見学、本邦航空会社の操縦士養成施設見学、現地高学生との交流会等を実施した。

(4) 絵画コンテストの支援

応募チラシの印刷費の一部を補助した。

(5) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントを実施する全ての実行委員会に少額配賦することとし、意欲的なイベントを計画している空港等（6箇所）に追加配賦を行った。

(6) 啓発事業の支援

青少年を対象とする「航空教室等」および航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費の一部を支援した。

(7) その他

関東近郊の中学生10名を対象とし、ANA訓練センター、JALメンテナンスセンター等の羽田空港周辺航空関連施設見学を8月24日に実施した。

VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が当協会に委嘱されたが、平成22年2月新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。従って、平成28年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、IATA（国際航空運送協会）会議等への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2016年冬ダイヤ、2017年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、IATAのWSG(Worldwide Slot Guidelines)及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約100社）と実施した。

(1) 2016年冬ダイヤ（10.30,2016 - 3.25,2017）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2016年冬ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月下旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月中旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（6月中旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 138回会議への参加

SC138回会議がドイツ・ハンブルグにて6月21日～23日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2016年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

(2) 第6回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年6月福岡空港がレベル3空港の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い、今回から「空港発着調整委員会」と名称を変更して新規スタートすることとなった。

2017年夏ダイヤに向けて、第6回空港発着調整委員会を9月26日航空会館7階大会議室において開催した。主たる議題は、①2017年夏ダイヤに向けた調整方針、②成田国際空港に関する報告（運用状況、スロットの監視）、③東京国際空港（羽田）に関する報告（ターミナルビルの運用状況、スロットの監視）、④福岡空港に関する報告（運用状況、空港施設拡張計画、スロットの監視）、⑤首都圏空港機能強化に関する報告（成田空港の施設拡張計画、羽田空港の施設拡張計画）、⑥スロットのミスユース等であった。

(3) 2017年夏ダイヤ（3.26 - 10.28,2017）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2017年夏ダイヤの調整に当たり、前年同期の運航実績を各航空会社に送付（9月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月初旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、一次回答（10月下旬）を内外の航空会社に対して行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 139回会議への参加

SC139回会議が米国アトランタにて11月8日～11日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と個別面談方式により2017年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

(4) 第1回 国際線発着調整事務局運営協議会の開催

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空株（JAL）、全日本空輸株（ANA）、日本貨物航空株（NCA）、成田国際空港株、関西エアポート株の5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を受容できるような体制強化を図った。

本邦航空会社16社、空港会社等8社から、資金的支援、人的支援を受けることとして、「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、その第1回運営協議会を12月12日に開催した。この会合において、運営協議会規則の制定、平成29年度の予算配分計画の提示、基本覚書の制定等を行い、平成29年度からの新支援体制を決定した。

2. WWACG、IATAのJSAG会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG (Worldwide Airport Coordinators Group) 会議のコアメンバー（7ヶ国）と、IATAのJSAG (Joint Slot Advisory Group : 航空会社のスケジューラー（7航空会社）と空港の発着調整事務局（7ヶ国）との合同会議）会議に参加し、日本としての貢献を行った。

これらの会議では、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するためIATAのWSGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

(1) WWACG/C28 コアメンバー会議、JSAG/50 会議への参加

IATA SC138回会議に先立ち、WWACG/C28 コアメンバー会議が6月19日、IATAのJSAG/50 会議が6月20日、ドイツ・ハンブルグにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。

(2) WWACG/C29 コアメンバー会議、JSAG/51 会議への参加

WWACG/C29 コアメンバー会議が9月9日、IATAのJSAG/51 会議が9月10日、スイス国ジュネーブのIATA本部にて開催され、問題点解決に向けた議論を行なった。

(3) WWACG/C30 コアメンバー会議、JSAG/52 会議への参加

IATA SC139回会議に先立ち、WWACG/C30 コアメンバー会議が11月6日、

IATAのJSAG/52会議が11月7日、米国アトランタにて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。

(4) WWACG/C31 コアメンバー会議、JSAG/53 会議への参加

WWACG/C31 コアメンバー会議が3月7日-8日、IATAのJSAG/53 会議が3月9日米国フロリダのIATA支部にて開催され、問題点解決に向けた議論を行った。

3. APACA (アジア太平洋発着調整事務局連合) 会議の開催

オーストラリア・日本が中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127 会議において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association (APACA)が発足した。このAPACAの目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATAガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。

(1) APACA/12 会議

SC138 会議期間中の6月21日、第12回APACA会議を開催した。第12回会議では、APACAの緊急選挙結果、過去の議題、インドネシア発着調整事務局、空港レベル変更、新組織の規約案等について議論を行った。なお、緊急選挙の結果、日本の国際線発着調整事務局長が議長、オーストラリア、インドの発着調整事務局長が副議長として選出された。

(2) APACA/13 会議

SC139 会議期間中の11月8日、第13回APACA会議を開催した。第13回会議では、ICAO第39回総会の概要報告、発着調整事務局の独立性、新組織の規約(案)、WWACGスロット・ガイドライン(調整パラメーター)、香港国際空港における騒音規制導入(案)についての議論を行った。

4. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

IATAのWSGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、又アジア太平洋地域の主要メンバーとして下記に示すような種々の取り組みを行った。

(1) アジアン・ブリーズ第45号(アメリカFAAの国際線発着調整事務局特集)を発刊した。(4月)

(2) アジアン・ブリーズ第46号(シカゴオヘア国際空港発着調整事務局特集)を発刊した。(6月)

(3) アジアン・ブリーズ第47号(サンフランシスコ国際空港発着調整事務局特集)を発刊した。(8月)

(4) 第6回空港発着調整委員会を開催した。(9月)

- (5) アジアン・ブリーズ第48号（ロサンゼルス国際空港発着調整事務局特集）を発刊した。（10月）
- (6) 国際線発着調整事務局に関する運営協議会設立のための準備会合を開催した。（10月）
- (7) 第1回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催し、平成29年度の予算案を可決した。（12月）
- (8) アジアン・ブリーズ第49号（IATAスロット・オフィスの特集）を発刊した。（12月）
- (9) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制官、航空管制運航情報官を対象として、国際線発着調整業務概要の説明を行った。（29年2月）
- (10) アジアン・ブリーズ第50号（シアトル国際空港発着調整事務局特集）を発刊した。（29年2月）
- (11) フィリピン運輸通信省からの要請に基づき、フィリピン運輸通信省(DOTC)、航空局(CAAP)、航空委員会(CAB)、マニラ空港公団(MIAA)、フィリピン航空(PR)、セブパシフィック航空(5J)等を対象として、発着調整業務に関するセミナーを実施した。（29年3月）

5. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、延べ100社であり空港毎に下表のとおりである。

地 域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	9	8	9	10	14
北米（カナダ、メキシコ 含）	9	5	6	2	2
欧州	15	4	5	1	1
アジア・オセアニア、 南太平洋	45	25	51	22	24
その他（中東、アフリ カ等）	5	2	2	0	0
合 計	83	44	73	35	41

Ⅸ. 航空会館運用事業

会館運営活動

(1) 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努めた。

なお、航空会館テナントスペースおよび月極駐車場25台は満室となった。

(2) 貸し会議室事業

都内・近隣の貸会議室が急増し競争が激しくなる中、サービスレベルを維持し、引き続き顧客へのきめ細やかな対応に努めた。28年度は、採用面接でのご利用が8月から6月の繁忙期になった影響でご予約をお断りせざるを得ない状況もあり、上期は順調に伸びたが、下期は、例年2月ご利用のお客様のお申込を応札できなかった影響が回復に至らず、結果として予算達成できなかった。

営業：日祝営業の推進、Web広告対策（WEB広告、検索順位向上対策）

設備：2F、5F、7Fのカーペットおよび7Fは壁紙も同時に張替えを行った。

(3) 立体駐車場の保全工事

月極駐車場の主モーター等の動力系統等の保全工事を4月29日から5月8日まで全車を出庫して行い無事終了した。

Ⅹ. 航空クラブ

広く航空に携わる人々を中心に設立された航空クラブは発足から38年目を迎えた。

平成28年度の会員動向は、ご高齢の会員の退会もあり394名となった。

航空クラブの活動としては、渡部恒雄氏、長廻紘氏を講師とした卓話会の開催、川崎重工業（株）岐阜工場およびかかみがはら航空宇宙科学博物館の見学会を実施した。

また、航空局次長の平垣内久隆氏による新春卓話会を開催した。

同好会の活動としては、囲碁、書道、太極拳、写真の各同好会は、航空会館の会議室を利用して毎月、定例会や大会を開催し、会員相互の親睦と啓発に努めた。

機関誌「航空クラブニュース」は3回刊行し、卓話会の内容や各同好会の活動紹介などを掲載し、会員に情報を提供した。

会員数並びに活動実績は、次の通り。

(1) 会員数（平成29年3月31日現在）

	東京	地方	計
個人会員	50	8	58
推薦会員	81	11	92
特別会員	72	2	74
特別法人会員	155	15	170
合計	358	36	394

(2) 航空クラブニュース

発行号	発行月
124	平成28年4月
125	平成28年8月
126	平成29年1月

附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。